

令和元年度 第2回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

〔開催日時〕 令和元年 10 月 4 日（月） 18：30～19：43

〔開催場所〕 昭島市役所 3 階庁議室

〔出席者〕

- 1 委員：亀卦川会長、長瀬副会長、臼井委員、内田委員、大嶽委員、堺委員、田中委員、二ノ宮リム委員、藤原委員、山本委員
- 2 事務局：池谷環境部長、吉野環境課長、小林係長（計画推進係）、光畑係長（環境保全係）、小沢係長（水と緑の係）、渡邊主任、橘主任
- 3 コンサルタント会社：倉地、前田
- 4 傍聴者：3 名

〔欠席者〕

委員：椎名委員、名取委員

〔議事要旨〕

- 1 開 会
- 2 議 題
 - （1）審議の流れについて【資料1】【資料2】
 - （2）環境基本計画の枠組みについて【資料3、4】
 - （3）計画策定の背景【資料5】
 - （4）環境の現状の整理【資料6】
- 3 報 告
 - （1）気候変動適応策に関する照会調査及び職員講習会の実施について【資料7】
 - （2）平成30年度「昭島市の環境」について
- 4 その他
- 5 閉 会

〔配布資料〕

- 資料1 昭島市環境基本計画等改定スケジュール
資料2 令和元年度の検討作業フロー
資料3 環境基本計画の枠組みについて
資料4 上位計画・関連計画の整理（環境関連の施策の抜粋）
資料5 環境を取り巻く国際社会、国、東京都の動向
資料6 環境の現状
資料7 気候変動適応策に関する照会調査及び職員講習会概要
「気候変動適応策に関する職員講習会」配布資料
平成30年度「昭島市の環境」

[発言要旨]

1 開会

2 議題

- (1) 審議の流れについて
- (2) 環境基本計画の枠組みについて
- (3) 計画策定の背景

環境基本計画改定のスケジュールや計画の枠組み、環境を取り巻く国際社会・国・都の動向等について、事務局からの説明が行われた。

吉野課長： 資料1・2について説明

亀卦川会長： 基本計画の枠組みや計画策定の背景まで繋がる話になるので、資料について事務局からまとめて説明してもらいたい。

吉野課長： 資料3・4・5について説明

亀卦川会長： (1) から (3) まで説明があった。全体的な作業フローが示されているが、このうち9月頃と書かれているのが今日のテーマとなる。環境基本計画の枠組みについては、上位計画や関連計画について資料が提示された。委員の皆さんから意見・質問があればお願いしたい。

資料3で、地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を下位計画とする理由は何か。

吉野課長： 事務事業編は庁内的な計画なので、全体を表す計画とは別建てにするよう考えている。

亀卦川会長： 連携を図るべき計画が挙げられている。今回は環境基本計画を見直すことになるが、他に見直しを行う計画はあるのか。

吉野課長： 市では、総合基本計画を同時期に策定する。市の総合基本計画の柱に「環境との共生」が入ってくるので、環境基本計画との整合を図る必要がある。また、都市計画マスタープランについては、緑の関係の内容と整合を図る必要が生じてくる。

(4) 環境の現状の整理

昭島市の環境の現状について、事務局からの説明が行われた。

(資料6、吉野課長による説明)

臼井委員： 少子高齢化という中で、昭島市の人口は横ばいか、増加していくのか、予測はどのような内容なのだろうか。若干増えていく気がするが、市内では大規模開発はあまり多くないだろう。

池谷部長： 昭島市が策定している地域戦略では、ここ3年から5年は増えていき、その後は10万人くらいまで減少傾向となる予測である。

臼井委員： 人口との関わりでは、特に水道（地下水）が心配になると思われる。

藤原委員： 騒音の問題について。自動車と航空機について記載がある。このうち航空機については横田基地のデータに限定されている。昭島市の北東側は、立川基地（自衛隊）や消防、警察のヘリコプターがうるさいが、こうしたデータはあるのか。

吉野課長： 立川飛行場については、東京都がデータを持っている。ヘリコプターのため、長時間にわたって騒音が続くと認識している。

藤原委員： データは無いのか。

吉野課長： 立川市の砂川に東京都の観測所があり、そのデータが公表されているが、市はデータを持っていない。

藤原委員： 少し音がうるさいので、耳に入れておいていただければと思う。

内田委員： 温室効果ガス排出量のデータが掲載されているが、どのように調べたのか。例えば、事業者の数から推定して算出しているのか。

吉野課長： オール東京 62 みどり東京温暖化防止プロジェクトという事業があり、62 市区町村が共同で調査している。その調査機関が電気等のデータを収集し、算出したものである。

亀卦川会長： それでは下から積み上げたものではなく、市全域のデータを把握しているということか。

吉野課長： そのとおりである。

山本委員： 公害苦情で、平成 30 年度は土地管理と動物の苦情等が増えているが、何故なのか。

吉野課長： 土地管理は、草やごみの苦情が多い。動物については、アライグマ・ハクビシン・タヌキの苦情が多い。

亀卦川会長： 随分苦情が増えたようだが。

池谷部長： 実際、目にするようで、すぐに市に連絡が入る。いずれも空き家に住み着いている。土地管理についても空き家周辺は乱れがちで、空き家に生息するようだ。したがって、空き家が増えているのは一つの原因だと思う。

亀卦川会長： 生態系的な変化はあるのか。

吉野課長： 確かにアライグマやハクビシンは増えている。

田中委員： 樹木が多い地域では、これらの動物が増えているようだが、その他に昭島は鳥が問題になっている。

吉野課長： 多摩川の崖線に沿ってアライグマが見られる。ハクビシンは果物が好きで、庭木で植わっている果物を食べているとみられる。また、空き家などの天井裏に隠れて、果物を食べているらしい。

田中委員： 自治会にアンケートを出しているようだが。

吉野課長： それは東京都が実施しているものである。

内田委員： 最近ハトが見られなくなった。原因はカラスが増えたからだという。マンションの中層階のお宅だと、カラスがうるさいという苦情が多い。

吉野課長： 昭和の森の北側にカラスのねぐらがあり、そこからやってくるようだ。昭島駅のあたりはムクドリがすごい。ムクドリは人がいるところに集まりやすいそうだ。人がいればカラスに襲われないからだと言った。木があるとムクドリがやってくるが、切ると現れる場所が変わる。昭島駅東側の自転車置き場の辺りにはムクドリが集まっており、糞の苦情が多い。

藤原委員： 生物多様性については調査結果が出ているが、これ以外の調査もあるのか。環境コミュニケーションセンターが開発されたとき少し自然が破壊されて、キンランが保護されていると聞いている。立川基地跡地が開発され、開発前に生物調査が実施されていて、オオタカが確認された記録がある。その後の

生息状況はどうなったのだろうか。

吉野課長： キンランは保護するようにしている。オオタカについては、サンクチュアリーとして人が手を付けない区域を設定して保護している。また、昭和の森にもオオタカが営巣しているという。調査はいろいろな団体が踏査しているので、情報提供を受けながら、現状把握をしていきたい。

藤原委員： 我が家の上空をオオタカが飛んでいる。ここに記載されているデータだけでは寂しい。

吉野課長： 平成 18 年のデータであり、やや古い。この資料はスタート段階のもので、改定作業を進める中で充実を図っていきたい。

内田委員： 生物多様性については環境審議会でも議論することになるが、基礎的なデータとして庁内で情報を集めているようだ。しかし、生物多様性については他の項目と違って情報が集まりにくく、扱いが難しそうだ。

吉野課長： 自然環境調査は動物や植物の種類が多く、それぞれ春夏秋冬に分けてデータを把握する必要がある膨大である。あきる野市や稲城市は立派な計画を作っているが、あっさりした計画を作る自治体もあり、見極めながら作業を進めてまいりたい。

内田委員： 検討作業フローの 4 番目で、環境基本計画の進捗状況の評価結果が出てくるということか。

吉野課長： そのとおりである。市の事務事業評価の結果も含めて提示する考えである。

亀卦川会長： 資料 2 の 5 で生物多様性についても少し話が出ているが、庁内でデータを収集しているということによいか。

吉野課長： 後ほど説明するが、気候変動適応策についても、現状でどのように取り組んでいるか、庁内で調査をかけている。

亀卦川会長： 気候変動の予測の話が出ているが、RCP8.5 シナリオというかなり最悪なシナリオのデータが載っている。最近の研究では、実情としては RCP8.5 に沿って進んでいるという。いくつかシナリオがあるが、残念ながら悪いシナリオに沿っているようだ。将来の気温上昇の予測についても、これまで言われてきた将来予測結果よりももう少し悪化するようだ。今世紀末までに 2～5℃まで気温が上がると言われてきたが、最新の予測ではもう少し上がるようで、その報告書が来年か再来年に公表されるようだ。このような状況を見極めながら適応策を考えていく必要があると思う。

長瀬副会長： 空気は目に見えないものだが、悪化しているようだ。肺の細胞が悪化して、喘息や肺の異常、風邪をひきやすい人が増えているようだ。PM2.5 の調査は行っているのか。健康と関わってくる。

吉野課長： 東京都が PM2.5、PM1.0 の調査を行っており、値が高くなるようなときは市も注意を促すようにしている。

長瀬副会長： もちろん調査は大事だが、どうするかが重要である。先日の千葉県での台風が東京都側にずれてきた場合、屋根が飛ぶのではないかと心配する声もあった。現実問題どうするのか。

吉野課長： 昨年の台風では市内でもヒマラヤスギが倒れた等の被害があった。最近では日本周辺の海水温が高いため、いきなり台風となって上陸する状況が起きると言われている。気候変動を考えていく必要がある。

亀卦川会長： 気候変動の影響としては熱中症の被害もあるが、被害状況のデータはないか。

吉野課長： 後ほどご説明する職員講習会では、都内のデータを紹介していた。講演資料の 16 ページに熱中症の発生状況を掲載している。去年は非常に暑かった年であり、例年より倍以上の搬送者数となっている。

亀卦川会長： 市内での熱中症搬送者数はどうだったか。

吉野課長： 健康課へ確認する。

長瀬副会長： 光化学スモッグも最近聞かなくなった。

亀卦川会長： これについての記載がないのは何故か。

吉野課長： 「昭島市の環境」15 ページに関連の記載がある。VOC 対策が進んで、光化学スモッグは減る傾向にある。昭島市が含まれる多摩中部での光化学スモッグの発令は、平成 28 年が多かった。去年は 4 回の発生が確認されている。

3 報告

(1) 気候変動適応策に関する照会調査及び職員講習会の実施について

(2) 平成 30 年度「昭島市の環境」について

照会調査及び職員講習会の実施状況と、冊子「昭島市の環境」の配布について、一括して事務局より報告した。

(資料 7、小林係長による説明)

亀卦川会長： 気候変動適応策についての事業調査票はあるが、生物多様性について調査は実施しているのか。

吉野課長： 生物多様性については、庁内というより環境団体に照会をかけた方がよいと考えている。庁内の関係課が把握している情報は限られている。

内田委員： 調査の取りまとめ結果は、環境審議会に報告してもらえるのか。

吉野課長： 取りまとめし、次回報告する。

長瀬副会長： 東京都は昭島市の環境についてランク付けしているのか。

池谷部長： ランク付けはしていない。ごみについてはあるが、真ん中よりやや優良な部類にある。

長瀬副会長： 市長は「食べ物を残すな」とやっているが。

亀卦川会長： 適応策について。気候変動影響は、地域の特性に応じたものになる。全体についての記載はあるが、昭島市の環境に照らした影響については、どの様な感じになるか。

吉野課長： 事業においてどの様な影響があるか把握した。例えば、暑さで事業を延期した。

亀卦川会長： 暑さもあるが、雨もある。以前、水害対策について議論があったようだが。

吉野課長： 例えば、水害対策も考えていく必要がある。ゲリラ豪雨ということで、どのような対策が必要になるか、洗い出していきたいと思っている。

大嶽委員： 市長はよく水のことを話している。水循環基本法ができた。水は昭島市の売りということもあり、横断的に見ていく必要がある。一側面ではなく、みんなで行っていく必要があるテーマである。水についてクローズアップされるとよいと思った。

- 吉野課長： 水道部では今年度から3年間かけて地下水の調査を行う。次期環境基本計画では、5年単位で計画に施策を載せるので、次の計画に載せることもできる。
- 大嶽委員： 雨水をかん養させる計画、水道は水道で水の確保、安全のことが重要だが。水をかん養させるといった仕組みを考えるのは、環境担当部署がリードしていくべきだと思う。
- 吉野課長： 環境課、水道部、下水道課で地下水のかん養、雨水の貯留・浸透に取り組んでいるが、適応策の一つとして雨水を川にそのまま排水せず浸透させていくことも考えていく。
- 大嶽委員： 生物多様性について愛知ターゲットがある。愛知ターゲットについては確か1項目しか達成できなかったようだ。昭島市は生物多様性について取り組んでいくのか。
- 吉野課長： どこまで書けるかはわからないが、できるだけ最新の情報を入れながら、計画を考えていくこととなる。今後、庁内の作業部会でも検討していく。
- 大嶽委員： 生物多様性やSDGsも、気候変動の中で動いていく。SDGsがストンと理解されるとよいのだが。それぞれの事業が生物多様性やSDGsに関わっていることを職員が勉強し、底上げしていくことが重要。ビジネスもSDGsを意識しなければいけないということになっている。SDGsがあり、そこに生物多様性が含まれている、という基本となっていくとよい。
- 吉野課長： 本日は、先程までSDGsの講演会に参加していた。どうやれば職員に対し、包括的なSDGsを意識させていくのか考えないといけないと思った。次期環境基本計画は、総合的な計画にする必要があると思っている。
- 大嶽委員： この審議会にはSDGsの専門家もいるので心強い。SDGsを理解するためのカードゲームがある。課長だけでなく、職員も意識しながら取り組んでいけるよう、一緒に取り組んでいきたいと考えている。
- 長瀬副会長： SDGsについては相当クローズアップされている。SDGsの勉強会をやるとよい。
- 吉野課長： 環境・経済・社会が一体となって動いている、ということをみんなで考えていかなければいけない。
- 長瀬副会長： みんなで一緒に理解することは必要である。誰一人取り残さないという言葉もあり、重要である。
- 池谷部長： 市の職員がやっている仕事はSDGsに繋がっている。既に繋がっているということを考えていくと良い。
- 大嶽委員： やはり、誰一人取り残さないという意識を持つ必要があると思う。
- 長瀬副会長： 例えば税務署では租税教室をやっているが、それを徹底的にやっている。小さなことを積み上げていくとよい。
- 二ノ宮リム委員： 既に市が行っていることがSDGsに繋がっているというのは、そのとおりでよいが、同時に、抜けているところを埋めていくということも大切である。他の例を見渡しても、自分たちの都合のよいところだけを取り上げて、PRするところで留まっている場合が多々あるように思う。誰一人取り残さないという考え方の基本となるところは人権である。人権の重要性について共有することが一番大事である。

亀卦川会長： 本日は、環境基本計画の全体的な枠組みを確認し、環境の現状と言うことで話し合った。次回は、時間を使った議論をする必要があるだろう。前もって資料をいただけるとよい。

8 その他

事務局： 次回の審議会は12月下旬頃の予定。

内田委員： 年末は忙しくなるので、早めに日程を設定してもらいたい。

9 閉会